

第6回 武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議 議事要録

- ・日時：令和4年11月22日（火曜日） 午後6時30分～8時
- ・場所：武蔵野公会堂 第1・第2会議室
- ・出席委員：小林委員、吉本委員、吉川委員、和久津委員、町田委員、毛利委員（名簿順）
※吉本委員はオンライン参加、青木委員、花柳委員は欠席
- ・事務局：総合政策部資産活用課長・市民部市民活動推進課長 他3名
- ・傍聴者：2名

1 開会

座長から青木委員、花柳委員の欠席、吉本委員のオンライン参加の連絡後、事務局から配布資料の確認が行われた。

2 報告事項

- ・市民意見聴取（オープンハウス）について
- ・市民アンケート（自由意見欄）について
- ・第3回市民ワークショップニュースレターについて

【事務局】（資料1に基づき市民意見聴取（オープンハウス）について説明）

中高生を対象とした意見聴取を10月28日（金）、29日（土）に武蔵野プレイスにて、子育て世代を対象とした意見聴取を11月4日（金）、5日（土）に「0123吉祥寺」にて行った。武蔵野プレイスでは約60名から、武蔵野市立0123吉祥寺では約20名から意見を聴いた。プレイスを利用していた中高生には、武蔵野公会堂の知名度が低く、0123吉祥寺を利用していた子育て世代には、知名度はあっても利用したことが無いという意見が多くみられた。武蔵野公会堂を知らない、あるいは利用したことがない方からも、多くの意見が得られた。現在の武蔵野公会堂が、必ずしも幅広い世代には利用されていない可能性があることがわかった。

（資料2に基づき市民アンケート（自由意見欄）について説明）

様々な意見が出ており、立地を活かしてほしい、バリアフリー化を進めてほしい、気軽に立ち寄れる施設に、入口が暗くて入りにくいなど、市民ワークショップでの意見と同様の意見が多い印象がある。

（資料3に基づき第3回市民ワークショップニュースレターについて説明）

10月10日（月・祝）に武蔵野プレイスにて「もっと広げる、まちに広がるためにどうしたらよいか考えよう」をテーマに、第3回市民ワークショップを実施した。参加者は計15名であった。意見の内容は前回の会議でお示ししており、今回ニュースレターの形に取りまとめた。

【座長】質問等はないようである。

3 議事

(1) 報告書（案）の検討

【座長】続いて、事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】（資料4に基づき報告書（案）について説明）これまでの有識者会議を踏まえて報告書（案）を作成した。資料5は「求められる機能」について、これまで市民ワークショップや有識者会議において出された意見が報告書（案）に、どのように記載されているかを整理した資料である。1の「はじめに」は本日の意見を踏まえて作成予定である。2は、設置要綱に基づく内容を記載した。3は、市民意見聴取の経緯等を記載している。4は、利用状況や他の文化施設との関係、まちづくりにおける位置づけ等を紹介している。5は、「施設・設備」「利便性に関する」ことの2点の課題について記載している。6は、施設更新に関する考え方や施設のコンセプト（目指すべき姿）について記載している。7は、施設に求められる機能について、資料5に書かれている内容を基に、施設の各諸室等について記載している。8は、設計者の選定について、前回有識者会議で検討した内容を記載した。

【座長】A委員より、報告書（案）については異論が無い旨の連絡があった。急遽欠席のB委員からは別途意見を伺う予定。

【C委員】報告書（案）について、全体的には異論は無い。

細かな点について、まず、p11に「最新の技術」という表現があるが、どこまで最新の設備を導入するのかという点が議論になるだろう。「最新」というとかなりハイスペックなものがイメージされるため、最新とまで言わずに、「改修に見合った」や「今の技術水準に見合った」という表現の方が良いのではないだろうか。

次に、ホールの客席について、移動観覧席の内容が書かれているが、座席数の規模について書く必要があるのではないか。

続いて、現在の会議室棟については、「付帯諸室」の中で記載されているが、会議室単体の利用者もいることを考慮した際に今の「付帯諸室」という書きぶりで良いか懸念。

設計者選定について、プロポーザル方式は良いが、可能であればスケジュールを記載してはどうか。

また、改修ということなのでハードのことだけでも良いかもしれないが、運営についても何か併せて検討の必要があるなど記載してはどうか。

【事務局】まず、「最新の技術」という表現については、今の技術水準に見合う適切な設備というイメージで相違ないため、再検討する。次に客席について、席数については何らかの触れる必要があると考えている。事務局としては、他施設と棲み分けができ、今の客席数よりは座席幅が増えるため席数は減るが、今の席数がちょうどよいという意見もあるのでどの程度まで許容できるかを検討したい。参考平面図では260席なので現在の7割強だが、その程度以上は必要と考えており、その程度であれば他施設とも棲み分け可能と考えている。付帯諸室については、表現を再検討する。スケジュールについては、事務局としてイメージはあるが、有識者会議の報告としてはこの会議では検討していないので、参考資料として添付したい。最後に運営について、事務局内でも議論していた

が、文化施設として、創造・発信型の施設となると、より運営が重要となる。会議では具体的な議論ができていなかったが触れることとしたい。

【C委員】承知した。

【D委員】座席数の話があったが、会議室の規模についても記載が必要だろう。また、「洋室のみを～」とあるが、和室が必要ないように見える。茶室は不要という議論が以前の会議であったが、その内容も記載してはどうか。また、P13に搬入ヤードの内容があるが、順序として、舞台エリアの直後、楽屋の項目の次に記載してはどうだろうか。

【座長】搬入の記載は楽屋の次でよいだろう。事務局からどうか。

【事務局】搬入ヤードの性質を考慮し、楽屋の次の項目とする。和室と茶室の関係について、茶室の内容を追記する。以前の有識者会議での議論の通り、市内全域の視点で茶室機能の配置を整理する旨を追記する。会議室の規模について、これまでの有識者会議で「広めの部屋」の必要性が議論されたので、言及する。

【E委員】基本的に、これまでよりもよくなるということを全体的に加えるべき。改修によって、今あるものを費用対効果も考えながら利用しやすく良くなってほしいという表現が必要。客席についても、床面積が決まっているなら、最低限これだけの客席の幅が必要といったことを書いて、余計な不安を持たせないようにしてほしい。付帯諸室の表現は、「付帯」を削除して「諸室」としてはどうか。また、管理運営については「専門性をもった職員の配置」くらいの書き方はしてよいのではないかと。

【事務局】全体の表現について、修正を加える。席数について、具体的に書き込んだ結果マイナスのイメージを与えないように注意しつつ、座席幅についても加筆したい。職員の配置・体制について、あまり具体的な言及は今の段階では難しいかもしれない。

【E委員】座席については方向性だけでも示せるとよい。

【C委員】座席数について、例えば幅を持たせて260～300席等と記載し、加えて、客席環境についても記載してはどうか。環境がよくなること、その中で最大の席数を確保することを記載できるとよい。

【副座長】C委員、E委員の意見に同意する。この施設を改修し、より使い勝手がよくなるような、将来的な条例の改正や運営体制の整備について、その他の部分で構わないので明記したほうがよい。運営については、これまでの組織が横滑りで運営するとは限らないことも踏まえて記載したほうが良いだろう。

【事務局】ご意見のとおりと考える。

【F委員】他の委員の意見に同意する。報告書に運営についてどこまで書いてよいかは分からないが、費用対効果や受益者負担についてどこかに記載し、色々なニーズに対応できる施設になることや、料金設定の仕方なども示せるとよい。

【事務局】運営については今後具体的な検討が必要だが、文化施設を有効に活用して文化活動をサポートできる運営が求められる点は示す必要があると考えている。

【座長】必要になることが有識者会議で結論づけられたことは記載しておきたい。確認しておきたいが、部屋の規模について、どこまで踏み込むべきか。

【事務局】必要な広さについては、利用率の高い現在の第1・第2会議室の広さが目安

になるだろうが、防音の部屋との兼ね合いもある。大人数で使える防音の部屋が全市的に少ないという現状がある。吉祥寺エリアでは吉祥寺美術館、南町コミュニティセンターがあり、各々利用率が高いが、吉祥寺エリアに限らず全市的にもグループで使える広めの防音の部屋のニーズが高いと考えている。

【座長】全体の流れはこれでよいが、過去の議論を踏まえて書き込みが必要で、スケジュールも参考で追加という部分是对応していきたい。

一点、委員としての意見だが、市民アンケートやニュースレターを見ると、多くの意見は対応できているように見受けられる。ただ一つ気になっているのが、オープンハウスの子育て世代の意見について、子育て世代が吉祥寺を歩くと少し辛いという話がある。南口全体をどうするかという枠組みで書く必要があるが、「だれもが利用できる」というのがコンセプトに記載されている。これは「バリアフリー」よりも、もう少し幅広い意味合いの「ユニバーサルデザイン」という言葉にしてはどうか。「バリアフリー」では少し狭く捉えられる可能性がある。

【事務局】趣旨は物理的な「バリアフリー」に限らないため、修正したい。

【座長】花柳委員の意見を今後聴取し反映してほしい。細かな表現等の詳細については正副座長と事務局に一任ということでよいか。異論は無いようである。

【事務局】会議後に気付いた点については連絡願いたい。なお、「1.はじめに」では、議論がはじまった背景について記載する。これまでの会議での議論に基づき、正副座長の相談で総括的な記載をする予定。

【座長】「1.はじめに」についても正副座長に一任ということでよいか。異論は無いようである。ワークショップ等の意見を見ていると、有識者会議の委員は状況を承知しているが、この会議の外の市民等には背景や考え方についてよく知られていないように見受けられるため、簡単に理解できる概要を記載しておくべきだろう。20年後にどうするかを考えるべきという前提があるため、はじめに記載すべきだろう。これにて本会議の全ての議事が終了した。各委員より感想をいただきたい。

【E委員】武蔵野公会堂は自分にとって身近な施設であり、議論に関わることができうれしい。私が携わっているジャズバンドでも公会堂を使っているが、ホール以外で本番前のリハーサルを行える場所がない。そういったことが今後解消されるとよい。改修では納得できないという意見や、とにかく早く改修してほしいという意見もあった。少しでも使いやすい施設になるとよい。

【D委員】改めて現状と将来を見据えて何が一番必要かを考えることができた。将来に向けてここを拠点とし、どのように運営していくかという点も課題と認識している。

【F委員】委員として参加し、非常に勉強になった。普段は商業者の立場でまちに関わっている。民間の施設であったらまた異なるだろうということを、市民意見を見ながら感じた。また、ちょうど世代交代の時期である。ここで集まった意見も、どの年代の意見に耳を傾け、これまでの利用者の意見を聞くかのバランスが難しいと実感した。別の立場でまちの世代交代に関わっているが、大変興味深かった。

【副座長】武蔵野市に長く住んでいるが、これまで文化施設は既存のものだった。市民

の意見の強い武蔵野市において、文化施設が市民の意見を反映して作られていないことを疑問に思っていた。そういう意味でも、文化振興基本方針をつくり、市民文化会館の改修についても意見を述べてきた。さまざまな意見のバランスを取るのには難しいが、今できる最善の選択のためのコンセプトづくりをしたと思っており、良かったと思う。これこそが武蔵野市らしさではないか。関わることができよかった。

【座長】 今回の中高生向けのオープンハウスの結果が衝撃的だった。ほとんど公会堂を知らない、行ったことが無いということだったが、改修後、知っている人が増えればよい。もう一点、現在建設費が高騰しており、予算どおりに行くかという問題がある。新築も、一般論としてコストが上がっている。市役所として、持っている施設をどう使っていくかを戦略的に考えていくべき。今後、新築自体が難しくなる可能性がある。既存ストックを使っていく中で、今あるものに引っ張られるとしても、「最新」でなく、今あるものをなるべく効率的に使い「最適化」ということが、大変ではあるが重要である。建築分野の関係者は納得するような計画となったのではないだろうか。建て替えるべきと思う点もあるが、社会状況として許されない状況である。大学で学生とも話しているが、建築専攻の若手の考え方には沿っているようだ。プロポーザルの際には良い提案が出てくるだろう。また、ワークショップ等で意見をくださった市民の意見が色々な部分で活かされるだろう。ポテンシャルを再認識して次へ進める会議であった。

4 事務連絡

- ・今後の予定について

【座長】 最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。

【事務局】 委員の皆様には、6か月間というタイトな日程の中、ボリュームの多い検討を進めていただき感謝している。今後12月12日に市議会に有識者会議報告の内容を説明する。2月に市として基本計画（案）を取りまとめパブリックコメントを行う。年度内に計画を策定予定。来年度に設計者選定に入り、設計完了後に約2年間の工事を見込んでいる。直近の予定としては、12月の議会報告に向けて報告書を整える。今週末を目処に追加意見を受領し、正副座長にて詳細を確認しながら作成する。

5 閉会

【座長】 これにて第6回武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議を閉会し、本会議を終了とする。